

消防署 だより

松前消防署 ☎ 984-3404
FAX 984-4011

一人一人の対策で大規模火災を防止 地震時の通電火災にご注意

令和6年8月8日16時43分ごろ、日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。この地震の発生により、南海トラフ地震の想定震源域で、大規模地震が発生する可能性が高まったため、気象庁が「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を発表。これによる国や自治体による呼び掛けは終了しましたが、同地震が発生する確率は今後30年以内に70～80%と非常に高いことには変わりはなく、南海トラフ地震発生の可能性がなくなったわけではありません。

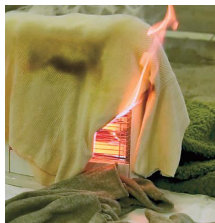
地震火災の発生はガスコンロや石油ストーブなどの暖房・ガス機器の転倒による火災が多いと思われるがちですが、近年発生している大規模地震では日常的に使用している電気機器からの火災が増加しています。

地震の発生を防ぐことはできませんが、私たちの行動で被害を最小限に抑えることはできます。日頃から次のことに気を付け、地震が起きたときは落ち着いて行動しましょう。

● 通電火災とは

「通電火災」とは、地震や台風などの自然災害の影響により、停電から電気が復旧することによって発生する火災のこと。避難所などに避難している場合には、出火時の初期消火が行えず火災が拡大する可能性も。次のような状況で通電したときに出火しやすいので注意しましょう。

- 1 電気製品の配線が、転倒した家具などの下敷きになって損傷している。
- 2 落下したカーテンや洗濯物などの可燃物が、暖房器具や照明器具に接触している。
- 3 転倒した暖房器具や照明器具が、可燃物に接触している。



▶ 地震火災を防ぐためにできること

【事前の対策】

- 1 家具を固定するなど転倒防止対策をする。
- 2 住まいの耐震性を確保する。
- 3 暖房器具や照明器具の周辺は整理整頓し、可燃物を近くに置かない。
- 4 消火器や住宅用火災警報器を設置する。

【地震直後に注意すること】

- 1 電気製品のスイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜く。
- 2 石油ストーブなどからの油漏れがないか確認する。
- 3 避難するときはブレーカーを落とす。



【地震後しばらくしてから注意すること】

- 1 電気製品やガス・石油機器は、損傷がないか、近くに可燃物がないかを確認して使用を再開する。
- 2 再通電後は、電気製品に煙や臭いなどの異常がないか注意する。



【日頃からの備え】

- ・自分の地域の地震火災による影響を把握する。
- ・災害が発生したときにどうすれば良いか、日頃から家族で話し合う。
- ・地域の防災訓練に参加して、災害が発生したときの対応方法を学ぶ。